

## 東北・北陸地域でも秋播栽培が可能な 地ビール醸造用二条大麦新品種「小春二条」

### 研究のねらい

近年の地産地消の流れを受けて、各地で地元産麦芽を使用した地ビールが醸造されている。しかし、東北や北陸のような積雪地帯では、既存のビール用二条大麦を秋播栽培すると、寒さや雪のために安定した収量や品質を確保することが困難である。そこで、これらの地域でも秋播栽培が可能で、ビール醸造適性が高い二条大麦を育成する。

### 成果の内容および利活用

- ①二条大麦新品種「小春二条」は、東北・北陸地域で広く栽培されている食用六条大麦「ミノリムギ」と比べて、穂数が多いが子実重は少ない(写真2、図1)。
- ②「小春二条」の寒さや雪に対する強さは、「ミノリムギ」と比べるとやや弱い、ビール用二条大麦「あまぎ二条」と比べると明らかに強い(写真3)。
- ③ビール醸造適性では、ビール製造量に直接関係する指標である麦芽エキスやでんぷん分解能力の指標であるジアスターゼ力がいずれも「ミノリムギ」より高く優れる(図2)。
- ④栽培適地は東北・北陸地域で根雪日数が70~80日以下の平坦地である。



写真1 「小春二条」で醸造したビール



写真2 「小春二条」の穂  
(左から小春二条、ミノリムギ、あまぎ二条)

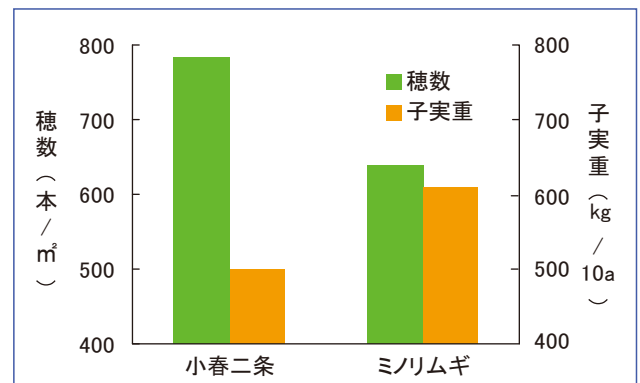


図1 「小春二条」の生育特性



写真3 盛岡市における「小春二条」の越冬後の様子  
(左から小春二条、ミノリムギ、あまぎ二条)  
2008年3月14日撮影。この時の根雪日数は88日。

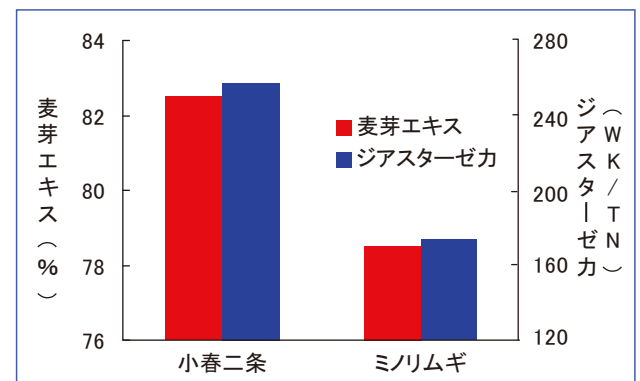


図2 「小春二条」のビール醸造適性

